

[様式11]

(対象事業:

事業名: 平成17年度 福岡県立美術館所蔵品巡回展「移動美術館展-ケンピがまちにやってくる」

事業者名: 福岡県立美術館・碓井町・碓井町教育委員会

連携事業館名: 碓井町立織田廣喜美術館

住所: 福岡市中央区天神5丁目2-1

TEL: 092 (715) 3551

FAX: 092 (715) 3552

HPアドレス: <http://fpmahs1.fpart-unet.ocn.ne.jp>



① 施設概要

展覧会場となる碓井町立織田廣喜美術館は、1996年、洋画家・織田廣喜を顕彰するために碓井琴平文化館の一施設として建設された。また福岡県立美術館は、福岡県ゆかりの作家の作品を収集する福岡市内の美術館で、今年度で開館20周年を迎えた。

② 事業の意図目的

福岡県立美術館では、平成7年度の開館10周年を記念して初の「所蔵品巡回展-移動美術館展」を大牟田市、行橋市の2会場で開催した。そののち回を重ね、平成17年には碓井町で開催する運びになった。

本展では、福岡県立美術館が長年収集してきた美術作品のなかから出品作を選び、展示することで、地域住民の美術にたいする関心をうながし、郷土美術への理解を深めることを目的とした。さらに、本展によって生活における美術/美術館の活用を提案し、美術をとoshita豊かな生活作りに貢献することを意図した。

③ 事業概要

平成17年9月10日から10月10日までの27日間、福岡県立美術館の所蔵品の中から日本画・洋画・彫刻・工芸・写真の作品60点を選び、展示した。また、テーマを、作家が20~30代の時期に制作した作品にかぎって出品することとし、展覧会のキャッチコピーとして「作家の若き日をめぐる冒険。」との文言を掲げた。

関連事業としては、鑑賞者に美術作品をより身近に感じてもらうと、会期中に2回の作品解説(ギャラリートーク)を行なった。

また、展覧会の会場スタッフとして事前にボランティアを募り、事前研修を複数回行なったのち、会場における作品監視と来館者案内を担当していただいた。

④ 事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 その他(ポスター、チラシ、観賞用リーフレット)

作成した報告書等

ビデオ (なし)

冊子 (なし)

その他 (なし)

⑤ 参加者状況

参加者人数 延べ 793 人

内 訳 招待者170人、一般入場者623人(うち高齢者317人)

(1) 事業の実施状況について

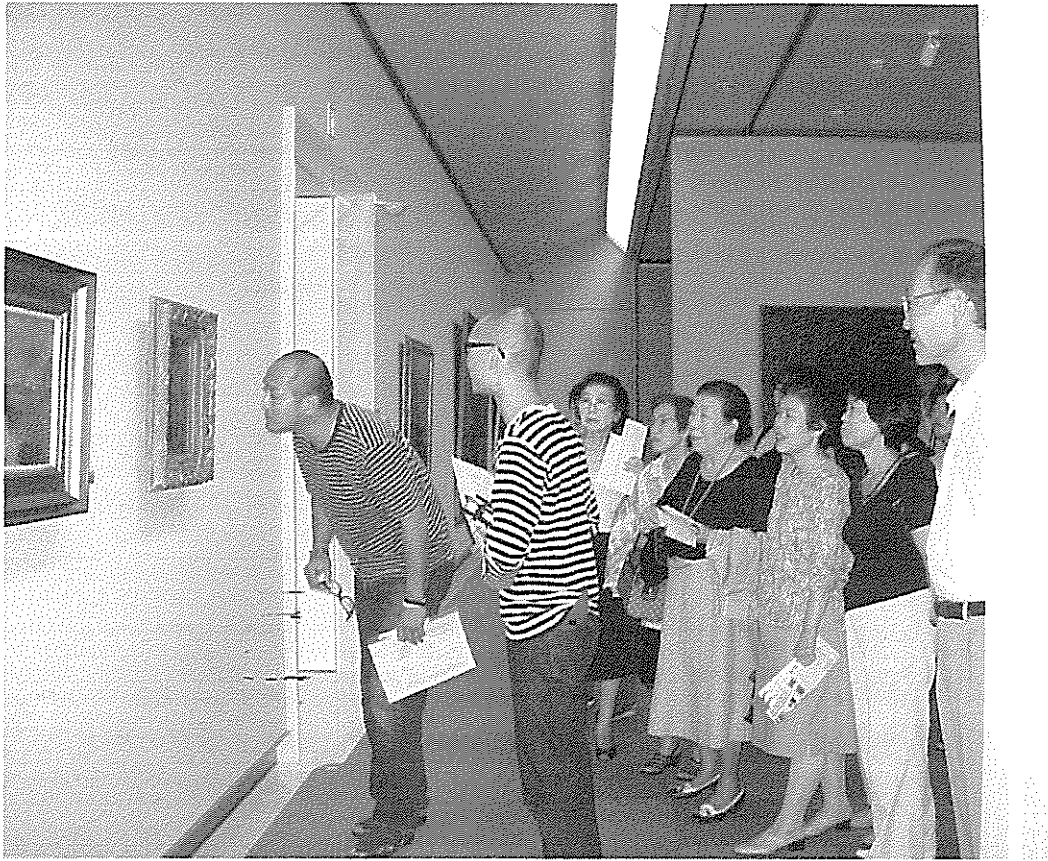
碓井町の地域住民の方々に、福岡県立美術館の所蔵品に親しんでもらい、郷土美術への理解と関心を深めてもらうこと、さらには美術／美術館を生活のなかで活用するひとつの方途を示すことが、本展の趣旨であった。

そのためにまず、出品作をその作家が20~30代に制作したものに限り、作品の多様性を作家の年齢で括ることによって、鑑賞者が美術作品／美術作家に共感しやすい状況を設定した。結果、鑑賞者は、古典的な日本画にも前衛的な現代美術にも、ジャンルの区別なく自由に鑑賞することが可能となった。



〈展覧会場風景〉

また、美術を日常生活からかけ離れた高尚なものとして鑑賞してもらうのではなく、鑑賞者各人の生活のなかで美術の豊かな可能性を発見し、活用してもらうためには、美術／美術館の敷居を低くする工夫も必須となった。そこで本展では、本覧担当者2人が作品を前に談笑する形のギャラリートークを開催し、リラックスした雰囲気づくりに努め、美術作品によって鑑賞者の想像力が開かれることを目指した。



〈ギャラリートーク風景〉

また、スタッフの教育は館外からの来館者サービスのためだけではなく、優れた鑑賞者を養成することにもつながる。そこで、作品監視および来館者案内のための会場ボランティアを事前に募り、事前研修を複数回行なった。とくに高齢者の方々には貴重な生涯学習活動の場を与えることができた。「事前研修はためになりましたか?」「次回もボランティアをやりたいですか?」との問いに対して、ともに19人中18人が「はい」と答えているのが、今回の成果を示している。

(2) 地域との連携について

福岡県立美術館と碓井町、碓井町教育委員会の三者で実行委員会を組織して、本展を実施した。また実際の運営に際しては、展覧会場となった碓井町立織田廣喜美術館のスタッフとも協働した。

（３）成果物について

鑑賞者に配布するために作成したリーフレットには、多数の作品写真がカラーで掲載され、出品作家の制作時の年齢も簡潔に図表化され、本展の独自な内容を伝えるための有効な手段となった。このリーフレットによって、来館者の一人一人が本展を鑑賞した意義を長く心に留めてくれることだろう。

（４）参加者の反応

〈来館者アンケート抜粋〉

- ・ 碓井町の取り組みに感心しますし、私の地元の行橋市でも美術を中心とした同様の街づくりがおこってほしいものです。 （40代男性）
- ・ 展覧会を見終えて、20歳から40歳という期間に作家さんが見ていたもの、感じていたものを、作品を通じて少しだけ共有させてもらえたような、そんな気持ちになりました。今まさにその年代に突入している自分も、この冒険できる時期に、精一杯行動しておこうと思います。 （20代女性）
- ・ 期待していた以上に作品がすばらしかったです。また機会があれば、ぜひ来たいと思います。 （40代女性）
- ・ またいろんな人の絵を見せてください。のんびり、ゆっくり見たいです。 （10代女性）
- ・ 日本の子どもがいつも明るく、感性が高くなるよう、これからもいろいろな催しを行なってください。 （40代女性）
- ・ 絵を見るとつい長時間立ち止まってしまいます。これからも、ここへ来て楽しんでいきます。 （10代女性）
- ・ 今回の展覧会は、作家の若き日を振り返るということで、若さと情熱を感じる作品が多かった気がします。とても印象に残るものでした。 （20代女性）
- ・ 係りの人が親切で、いい時間が過ごせました。 （50代女性）
- ・ 今回の移動美術館のような催しをまたしてください。楽しく拝見できました。 （60代男性）

〈監視ボランティア感想抜粋〉

- ・ こんな良い研修をさせていただき本当に楽しくうれしく感謝致します。加齢な私達を人並みに責任あるボランティアに参加させていただきありがとうございました。少々気持ちが若くなった気がします。日々からだを大切にして又私なりにできる事がありましたら参加させていただきたいと思っています。
- ・ 今「九州国立博物館」を雑誌やテレビ、新聞でよく見かけます。その中でボランティアの人たちが大量に資料を揃え、勉強をしてコーナーまで担当している姿を見て、やっぱり「うらやましいなーっ」って思います。ボランティアだからといって遠慮してもらうより、あの方々のように活動できたらもっともっと楽しいんじゃないかなと思います。

す。ボランティアで美術館へ行ってからはよその美術館やちょっとした企画展が気になるようになりました。以前はこんな事が無かったのでいい刺激になったと思います。

- ・ 県立美術館を訪れるのは1年に1回～2回ぐらいがせいぜい（公募展が主）で所蔵品をゆっくり鑑賞した経験は無かったのですが今回はお陰でゆっくりと機会を得ることが出来て本当に良かったと感謝致してまいります。有名な作家の方も若い頃…という時期が当然あったでしょうが矢張り卓越した技術や感覚があった人たちなんだな…とそして晩年の作品（ほんのわずかに知り得ている範囲で）とを併せて思う…等とても充実した気持ちで参加させて頂きました。

（５）芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

県立美術館の所蔵品をとおして、碓井町の地域住人に生涯学習活動の機会を与えることができたこと、美術にたいする関心を促したこと、さらには日常生活における美術／美術館の活用方法を提案できたことなどが、本事業の最大の成果となる。さらに本展では、地域の幼稚園児や小学生を招待し、将来の文化の担い手である子どもたちに優れた美術作品にじかに触れる機会を積極的に提供することで、幼児教育や学校授業での美術／美術館の活用を促した。これらの成果を短期的なスパンで計量化することは難しいが、本展が碓井町立織田廣喜美術館と福岡県立美術館の利用者増加に結びつき、結果、両美術館が美術をとおした豊かな生活づくりに貢献するものと確信している。



＜展覧会を訪れた幼稚園児たち＞